

第 3 回 SOSTAP 関西月例会議事録

日 時 : 2016 年 7 月 8 日 13:00~17:30
場 所 : IDEC 株式会社 本社ホール A
出席者 : 6 名 (法人会員 : 3 名 個人会員 : 3 名)

1. 報告事項

第 279 回東京月例会 (2016/6/28) 内容の関西月例会との情報共有化のため企画運営委員より説明があり、決定事項等を共有化した。

1) 第 2 回企画運営委員会 の説明 : 企画運営委員

① Advanced Safety Design について

安全技術応用研究会の研究テーマと位置付け、「関西委員会」で継続して研究を進める。
→当面、H27、28 年前半までの研究内容を「報告書」として纏め、年末目標に提出する。(現時点の最新版: Ver10 を基に、リスクアセスメントフロー図の改正、用語定義、引用規格番号、新たに用いる用語の英訳などの体裁を整えて、冊子、PDF にして提出)

② 協働ロボットについて

厚労省の「機能安全の活用促進に関する検討委員会」(委員 11 名中 7 名が安応研会員)と連携して、目的を絞った安応研内プロジェクト立ち上げを検討する。

③ 月例会紹介パンフレットについて

関西/東京版を作成した。7 月 6 日の大阪講習会から、案内を開始した。講習会冒頭で講師より内容紹介、受付デスク上に置いて受講生に持ち帰りいただいた。

④ DIS45001 の見直しについて

DIS が不承認となった。今後、大きな動向変化は年内は無いと思われる。

⑤ 「安全要求仕様書」について、

安全技術応用研究会の研究テーマと位置付け、「関西委員会」で継続して研究を進める。
→次回第 280 回東京月例会(2016/7/29)の場で、内容説明(関西担当)を行い、テーマの位置付けについて討議する。尚、現状の安応研の抱える全ての研究テーマをマッピングして、個々の研究テーマを評価し、外部に普及させる優先順位付け 及び 投入資源(マンパワー・期限・論文化外部公表等目論見)決定するための材料にしたい。
その叩き台とする予定である。

⑥ 非常停止の規格 13850 の変更点について

規格改定では非常停止ボタンにシュラウド(筒状突起囲い)を場合によっては付けて良いとなっているが、限定的な使用が付加された改訂となるようだ。

次回第 280 回東京月例会で説明する。

→オペレータや通行者が意図せず(足元がよろけたりして)非常停止ボタンを押してしまい生産上の損失を招く事態を防ぐ目的で、違法なガード取り付けを未然防止する措置。

2) 「からくり安全―“しくみ”を用いた安全確認型システム」の報告について

- ・東京月例会で報告した内容を再説明後、東京月例会での反響について説明があった。
- ・東京月例会の出席者は、“しくみ”を用いた安全確認型システムは、生産現場のオペレータや技術者が、安全確認型システムと危険検出型システムの違いを理解するとともに、自らが、“しくみ”を考案して既存生産設備を安全確認型システムにしているものであり、全員参加の安全システム構築の好事例と認識した。
- ・東京月例会の出席者は“しくみ”を用いた安全確認型システムは、外販する安全コンポーネントではないので、使用する部品の信頼性などの細かい詮索までは不要とすべき、生産現場での既存設備への手作りの安価な「安全確認型システム」の構築事例と認識した。
- ・本研究テーマは安全技術応用研究会の、TC2 作業部会から 1997 年 10 月に「“しくみ”を用いた安全確認型システム」として製本化されたが、広く外部公表はされていない。既に【<http://www.k5.dion.ne.jp/~shikumia/sikumianzen/shikumianzen.html>】にて本技術情報は無料で開示されているが、このような研究テーマは安応研として「知的所有権」として認知させ権利を保護する方策を、安応研の企画運営委員会なり理事会で検討すべきではないかとのコメントあり。

2. 関西月例会の討議事項

1) 研究テーマ：「安全要求仕様書」について

- ・第 280 回東京月例会(2016/7/29)の場で、内容説明(関西担当)を行なうので、次回関西委員会(7/16)では、説明資料の検討を行う。
- ・本「安全要求仕様書」は早く第三者にも公知できるように安応研として、ブラッシュアップに注力する。

2) 関西月例会の独自テーマの選定について

- ・前回から今回までの 1 か月間に、メールにてテーマ募集・一覧表作成・メンバーによるテーマ評価（優先順位付け）を実施した。
- ・出されたテーマについて各人から、取り上げた理由の説明を聞いた後、意見交換を実施した。
 - ① 単体機械設備を繋いで統合生産システムを構築する「インテグレート」された設備について、技術情報不足から、メーカ、エンジニアリング会社、ユーザの生産技術部門のどこが主導権をもって安全を確保するかについて「三すくみ」状態にあること。
 - ② そのため十分な技術・知識を持たないユーザの生産技術部門が手探りでインテグレートを試行錯誤しており、安全構築の上で不安状態にあること。などの認識を共有化した。
- ・討議結果、次回関西月例会(8/5)のテーマは、「単体機械同士を繋ぎインテグレートする場面での「不具合」「問題点」「試行錯誤」などの事例を持ち寄って、討議すること」とした。

3. その他

1) 関西月例会配付・発表資料

資料番号	資料名
279-0	第 279 回月例会議事録
279-1	月例会の紹介リーフレット(東京・関西)
279-2	「からくり安全“しくみ”を用いた安全確認型システム」発表資料

2) 次回月例会の開催予定

- ・ 東京：7月 29 日（金）10:00～ 大井町
- ・ 大阪：8月 05 日（金）13:00～ IDEC 本社

以 上